



平成30年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成30年2月9日

上場会社名 株式会社中村超硬 上場取引所 東
 コード番号 6166 URL <http://www.nakamura-gp.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 井上 誠
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員管理本部副本部長 (氏名) 藤井 秀亮 (TEL) 072-274-1072
 四半期報告書提出予定日 平成30年2月13日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成30年3月期第3四半期の連結業績(平成29年4月1日～平成29年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30年3月期第3四半期	9,376	182.9	1,356	—	1,213	—	1,267	—
29年3月期第3四半期	3,314	△31.1	△1,381	—	△1,585	—	△1,806	—

(注) 包括利益 30年3月期第3四半期 1,281百万円(—%) 29年3月期第3四半期 △1,816百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
30年3月期第3四半期	269.01	266.99
29年3月期第3四半期	△388.46	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
30年3月期第3四半期	17,738	7,774	43.8
29年3月期	12,195	5,014	41.1

(参考) 自己資本 30年3月期第3四半期 7,767百万円 29年3月期 5,014百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
29年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
30年3月期	—	0.00	—	—	—
30年3月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成30年3月期の連結業績予想(平成29年4月1日～平成30年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	12,500	150.4	1,500	—	1,450	—	1,350	—	282.40

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
 (連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)
 新規 ー社(社名)ー 、除外 ー社(社名)ー

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数(四半期累計)

30年3月期3Q	4,986,900株	29年3月期	4,678,900株
30年3月期3Q	ー株	29年3月期	ー株
30年3月期3Q	4,712,994株	29年3月期3Q	4,649,369株

※ 四半期決算短信は四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

なお、平成30年3月期の連結業績予想における「1株当たり当期純利益」は、平成29年12月に全量行使された第5回新株予約権による増加株式数等を反映した数値に修正しております。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報)	9
(重要な後発事象)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、世界経済の回復基調を受け、生産及び輸出が好調に推移するとともに、雇用情勢の継続的な改善や、設備投資、個人消費の持ち直し等により緩やかな成長の動きが見られました。米国トランプ政権の混乱、欧州政治情勢の不安定化、朝鮮半島情勢の悪化等の不安要素は継続して存在するものの、安定した為替相場にも支えられ企業業績は順調に拡大しました。

このような状況下、当社グループは、主力事業である電子材料スライス周辺事業において、主力製品であるダイヤモンドワイヤの需要が拡大し、また、昨年12月に開設した沖縄工場の本格稼働や継続的な設備投資による増産効果もあり、前年同期に比べ売上高が大幅に増加することとなりました。

また、利益面においても、増収に伴う押し上げ要因に加え、原価低減策を強力に推し進めた結果、前年同期に比べ大きく改善するに至りました。

これらの結果、当第3四半期連結累計期間における売上高は9,376百万円（前年同期比182.9%増）、営業利益は1,356百万円（前年同期は1,381百万円の営業損失）、経常利益は1,213百万円（前年同期は1,585百万円の経常損失）、親会社株主に帰属する四半期純利益は1,267百万円（前年同期は1,806百万円の親会社株主に帰属する四半期純損失）となりました。

セグメントの業績は次のとおりであります。

① 電子材料スライス周辺事業

電子材料スライス周辺事業においては、主力製品であるダイヤモンドワイヤが、従来の供給市場であった単結晶シリコンウエハ市場に加え、新たに多結晶シリコンウエハ市場で急速に普及が進みました。また、沖縄工場の本格稼働他、生産能力の増強を図った結果、前年同期から受注、販売量ともに大幅に上回ることとなりました。

利益面についても、増収効果に加え、前期より取り組んできた原価低減策において一定の成果が得られた結果、前年同期の赤字から黒字計上へと大きく改善することができました。

これらの結果、売上高は7,721百万円（前年同期比322.0%増）、セグメント利益は1,253百万円（前年同期は1,343百万円のセグメント損失）となりました。

② 特殊精密機器事業

特殊精密機器事業においては、実装機向けノズル、工作機械向け耐摩工具とも好調に推移し、また、新規顧客開拓にも努めてまいりました。

これらの結果、売上高は622百万円（前年同期比31.0%増）、セグメント利益は148百万円（前年同期は25百万円のセグメント損失）となりました。

③ 化学繊維用紡糸ノズル事業

化学繊維用紡糸ノズル事業においては、海外市場を中心に各種ノズル販売が堅調に推移し、また、生産効率の向上に努めた結果、売上高、利益ともに前年同期を上回りました。

これらの結果、売上高は1,032百万円（前年同期比2.3%増）、セグメント利益は154百万円（前年同期比35.8%増）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

① 資産

現金及び預金の増加3,318百万円、受取手形及び売掛金の増加980百万円、有形固定資産の増加901百万円等により、総資産は前連結会計年度末に比べ5,543百万円増加し17,738百万円となりました。

② 負債

リース債務の増加1,376百万円、流動負債その他の増加548百万円、長期借入金の増加298百万円、支払手形及び買掛金の増加206百万円等により、負債は前連結会計年度末に比べ2,783百万円増加し9,963百万円となりました。

③ 純資産

資本金の増加736百万円、資本剰余金の増加736百万円、利益剰余金の増加1,267百万円等により、純資産は前連結会計年度末に比べ2,760百万円増加し7,774百万円となりました。

この結果、自己資本比率は43.8%（前連結会計年度末は41.1%）となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成30年3月期通期の連結業績予想については、平成29年11月10日の公表数値から変更しておりません。

当第3四半期連結累計期間における業績は、主力事業であるダイヤモンドワイヤ事業が好調に推移したことにより、売上高、利益ともに想定を上回る結果となりました。また、足元の状況につきましても、ダイヤモンドワイヤ事業の受注ならびに原価低減は順調に進捗しておりますが、第4四半期に入って以降、ドル安円高傾向が見られるなど為替動向に不透明感があること等から、通期業績予想は据え置いております。

今後、通期業績の見通しがより明確化し、現時点の予想数値から修正の必要が生じた際には、速やかに開示いたします。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,649,913	4,967,921
受取手形及び売掛金	1,474,887	2,455,512
商品及び製品	440,016	433,147
仕掛品	298,956	303,826
原材料及び貯蔵品	689,062	896,081
その他	652,149	826,394
貸倒引当金	—	△17,695
流動資産合計	5,204,986	9,865,189
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	2,100,027	2,102,171
機械装置及び運搬具(純額)	2,672,748	3,107,757
土地	1,204,139	1,204,139
その他(純額)	533,301	997,691
有形固定資産合計	6,510,216	7,411,760
無形固定資産	122,405	98,320
投資その他の資産	357,696	363,496
固定資産合計	6,990,318	7,873,577
資産合計	12,195,305	17,738,766

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	540,976	747,136
短期借入金	1,540,000	1,640,000
1年内返済予定の長期借入金	1,086,458	1,250,336
リース債務	132,725	473,793
未払法人税等	11,986	85,741
賞与引当金	79,588	51,746
受注損失引当金	13,936	3,559
その他	348,335	896,348
流動負債合計	3,754,008	5,148,661
固定負債		
長期借入金	2,437,330	2,735,805
リース債務	305,858	1,340,835
役員退職慰労引当金	137,840	—
退職給付に係る負債	225,516	244,737
その他	320,279	493,938
固定負債合計	3,426,825	4,815,317
負債合計	7,180,833	9,963,978
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,037,608	3,773,658
資本剰余金	1,735,733	2,471,783
利益剰余金	230,179	1,498,044
株主資本合計	5,003,520	7,743,485
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	31	7,351
繰延ヘッジ損益	11	△112
為替換算調整勘定	10,907	17,187
その他の包括利益累計額合計	10,951	24,426
新株予約権	—	6,876
非支配株主持分	—	—
純資産合計	5,014,471	7,774,787
負債純資産合計	12,195,305	17,738,766

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)
売上高	3,314,172	9,376,336
売上原価	3,548,761	6,578,827
売上総利益又は売上総損失(△)	△234,588	2,797,508
販売費及び一般管理費	1,146,689	1,440,819
営業利益又は営業損失(△)	△1,381,278	1,356,689
営業外収益		
受取利息	145	1,197
受取配当金	74	92
受取保険金	—	5,195
業務受託料	25,380	—
受取賃貸料	29,520	—
スクラップ売却益	2,665	8,232
その他	21,417	8,929
営業外収益合計	79,202	23,647
営業外費用		
支払利息	30,037	62,795
持分法による投資損失	195,959	—
為替差損	—	56,925
業務受託原価	23,358	—
賃貸収入原価	19,434	—
金融組成費用	—	19,500
その他	14,920	28,100
営業外費用合計	283,709	167,320
経常利益又は経常損失(△)	△1,585,784	1,213,015
特別利益		
段階取得に係る差益	23	—
固定資産売却益	0	244
特別利益合計	24	244
特別損失		
固定資産売却損	4	20
固定資産除却損	389	625
減損損失	83,381	—
特別損失合計	83,775	645
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△1,669,535	1,212,614
法人税、住民税及び事業税	16,431	101,279
法人税等調整額	120,122	△156,529
法人税等合計	136,554	△55,250
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△1,806,090	1,267,864
非支配株主に帰属する四半期純利益	—	—
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△1,806,090	1,267,864

四半期連結包括利益計算書
第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△1,806,090	1,267,864
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	1,610	7,319
繰延ヘッジ損益	△1,718	△124
為替換算調整勘定	△9,816	6,279
その他の包括利益合計	△9,925	13,475
四半期包括利益	△1,816,015	1,281,339
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△1,816,015	1,281,339
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、平成29年11月30日付発行の第5回新株予約権(第三者割当による行使価額修正条項付新株予約権)の行使に伴う新株の発行による払込みを受け、発行済株式数が300,000株増加し、資本金及び資本準備金がそれぞれ730,050千円増加しております。

また、新株予約権の行使により発行済株式数が8,000株増加し、資本金及び資本準備金がそれぞれ6,000千円増加しております。

この結果、当第3四半期連結会計期間末において、資本金は3,773,658千円、資本剰余金は2,471,783千円となっております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自 平成28年4月1日 至 平成28年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	電子材料 スライス 周辺事業	特殊精密 機器事業	化学繊維用 紡糸ノズル 事業	その他 (注)2	計	調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額
売上高							
外部顧客への売上高	1,829,714	475,088	1,009,369	—	3,314,172	—	3,314,172
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	2,497	—	—	2,497	△2,497	—
計	1,829,714	477,586	1,009,369	—	3,316,670	△2,497	3,314,172
セグメント利益又は損 失(△)	△1,343,334	△25,767	113,849	△137,606	△1,392,858	11,580	△1,381,278

(注) 1 セグメント利益の調整額は、セグメント間の取引の消去によるものであり、これはグループ間の売上取引及び業務委託取引の消去によるものであります。また、配賦不能営業費用の金額はありません。

2 その他のセグメント利益又は損失の主なものは、前期に新設した新規事業開発室における研究開発費124,893千円であります。

2. 報告セグメントごとの資産に関する情報

「電子材料スライス周辺事業」において、和泉工場及び沖縄工場でのダイヤモンドワイヤ製造設備及び付随設備等の新設により、資産の金額が前連結会計年度末に比べ2,445,915千円増加しております。

3. 報告セグメントごとに固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

電子材料スライス周辺事業において、のれんの減損損失83,381千円を計上しております。

当第3四半期連結累計期間(自 平成29年4月1日 至 平成29年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	電子材料 スライス 周辺事業	特殊精密 機器事業	化学繊維用 紡糸ノズル 事業	その他 (注)2	計	調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額
売上高							
外部顧客への売上高	7,721,474	622,283	1,032,578	—	9,376,336	—	9,376,336
セグメント間の内部 売上高又は振替高	2,122	8,110	—	—	10,232	△10,232	—
計	7,723,596	630,394	1,032,578	—	9,386,569	△10,232	9,376,336
セグメント利益又は損 失(△)	1,253,633	148,029	154,639	△214,636	1,341,666	15,022	1,356,689

(注) 1 セグメント利益の調整額は、セグメント間の取引の消去によるものであり、これはグループ間の売上取引及び業務委託取引の消去によるものであります。また、配賦不能営業費用の金額はありません。

2 その他のセグメント利益又は損失の主なものは、新規事業開発における研究開発費180,118千円であります。

2. 報告セグメントごとの資産に関する情報

「電子材料スライス周辺事業」において、和泉工場、D-N e x t 及び沖縄工場でのダイヤモンドワイヤ製造設備の新設及び改造、また、付随設備等の新設により、資産の金額が前連結会計年度末に比べ2,136,969千円増加しております。

(重要な後発事象)

シンジケートローン契約

当社は、今後見込まれる業容拡大に伴う資金需要に対する機動的な資金調達を可能とするため、平成30年1月26日開催の取締役会において、株式会社三菱東京UFJ銀行をアレンジャー兼エージェント、株式会社りそな銀行をジョイント・アレンジャーとする総額40億円のシンジケーション方式によるコミットメントライン契約の締結について決議いたしました。

(1) 組成金額

トランシェA20億円、トランシェB20億円

(2) 契約締結日

平成30年2月2日

(3) コミットメント期間

平成30年2月28日～平成33年2月26日

(4) 担保・保証人

なし

(5) 財務維持要件

- ①本契約締結日又はそれ以降に終了する各年度の決算期の末日における連結の貸借対照表上の純資産の部の合計金額が、当該決算期の直前の決算期の末日又は平成29年3月に終了する決算期の末日における連結の貸借対照表上の純資産の部の金額のいずれか大きい方の50%の金額以上であること。
- ②本契約締結日又はそれ以降に終了する各年度の決算期に係る連結の損益計算書上の営業損益に関して、2期連続の営業損失が計上されていないこと。